

令和6年度 次世代モビリティ(MAYU)活用方法検証事業 結果報告

【主旨】

低速電動コミュニティバス「MAYU」の活用により、従来の公共交通ネットワークを補完するとともに、車両を活用した外出やコミュニケーションの機会創出による「心身の健康増進」や「環境負荷の低減」、「移動に関する社会課題の解決」を図るため、地域の実情に応じた交通手段の確保と活用方法について検証を行う。

【活用方法検証事業】

1 概要

- ・ 低速電動コミュニティバス「MAYU」の乗車体験機会を創出することで、環境にやさしいライフスタイルや、スローライフを心がける「ゆっくりズムのまちづくり」を推進する。
- ・ 市内の公共的団体等が実施者となり、高齢者サロンや校外学習など、1日～数日程度のMAYUを活用した実証運行を行う。
- ・ 運行に係る費用は桐生市が全額負担する。

2 募集方法等

- ・ 実証実験のため、社会福祉協議会に協力団体選定の依頼をするとともに、委託先であるゆっくりズム研究所のホームページにおいて募集。最大運行回数(10回)に達するまで随時受付。
- ・ 実施者は運行内容や参加人数等の実施計画を記した申請書をゆっくりズム研究所に提出。ゆっくりズム研究所及び桐生市にて内容を審査の上決定。

3 実施内容等

①最大運行回数

- ・ 最大10回/10日間(1日1台、8時間)

②実施結果

- ・ 運行回数：10回(7団体)
- ・ 利用者数：305人(1日平均30.5人)
- ・ 所感(「良い」の割合)：使い勝手70%、楽しさ1000%、満足度100%

4 検証結果

《利用事例の分類》

- ・ 利用事例を「福祉(移動支援)型」「体験乗車型」「社会実験型」に分類し集計したところ、福祉型3件、体験乗車型6件、社会実験型1件であった。
- ・ 福祉型はこれまで群馬大学や社会福祉協議会で取り組んできた内容で、外出機会の創出による利用者同士のコミュニケーションや健康増進の効果があつた。高齢者を対象とした活用事例の中で、途中で体調不良になってしまった利用者がいた。引率者の適切な対応で大事には至らなかったが、運用面でそのような事態も想定する必要があることがわかつた。
- ・ 体験乗車型は地域の夏祭りや文化祭での活用であり、利用者が限定されないため利用者数がかかり多くなることが特長。特に子どもの乗車が多く、多世代への浸透の観点でも利点がある。駐車場から会場までを結ぶシャトル的な運行も想定していたが、MAYUの定員が9人と少ないことから乗車しきれない場合を考慮し断念した。
- ・ 社会実験型は、桐生商業高校の授業の一環でMAYUの活用方法を考え実践する運行を行った。運行後に提出された運行結果報告書においても、利用者の様子や鉄道との乗り継ぎなどが的確に分析されており、教育分野での活用も非常に有意義であることがわかつた。

《今後の展開》

- ・ 1日貸し切りでの本運行事業は、多様な運用方法の検証結果を集めることができ、MAYU を公共交通として組み込む上で必要な特性の把握のため非常に有効である。
- ・ 利用者からの満足度や利用率も高く、継続して実施を希望する声も多いことから、MAYU の高いニーズと効果が伺える。
- ・ 自己負担の受容度の検証のため、令和 7 年度は車両レンタル料の一部を実施者（利用団体）に自己負担いただく形で実施する。

自己負担額の設定は、社会福祉協議会、㈱桐生再生、ゆっくりズム研究所、関東運輸局群馬運輸支局などの関係団体から意見を伺いつつ検討する。